

## 教育立市宣言前文

燕市は、平成18年3月20日に当時の燕市、吉田町、分水町が合併し、新生燕市として誕生しました。

新生燕市の沿革をたどると、先人の知恵と努力による偉業があります。

わたしたちの先人は、江戸時代からの和釘や鋳起銅器の製造から始まり、不断の努力により金属洋食器や金属ハウスウェアの生産技術へと発展させ、金属加工産業として国際的にも高い評価を得てきました。さらに、近年は新しい素材にも応用範囲を広げながら進化を続けています。

また、江戸時代後期の名僧・良寛はこの地を定住の地とし、人と自然を愛した良寛の思想や生き方は、

現代でも思慕の念を持って受け入れられています。この良寛の慈愛の心を受け継いだ長善館は、日本有数の私塾として幕末から明治にかけて進取の精神を抱いた有能な人材を数多く輩出しました。

さらに、幾度となく繰り返された信濃川の大洪水を治めるため、大河津分水路という一大事業を完成させ、この地を日本一の穀倉地帯に変えてきています。

これら先人の偉業が新しい燕市全体の財産となったことを機に、この偉業を継承し、人をまちづくりの原点として、豊かな人間性と創造性を備え、郷土に愛着をもった人づくりを市民とともに推進するため、ここに「教育立市」を宣言することにしました。

## 教育立市宣言文

### 教育立市宣言

教育は、心豊かな人格の形成を目指して、一人ひとりの個性や能力を活かし、主体的に生きる人間を育てるために欠くことのできないものです。

燕市は、人をまちづくりの原点として、市民とともに豊かな人間性と創造性を備え、郷土に愛着をもった人づくりを推進するため、ここに「教育立市」を宣言します。

そして、このまちで子どもを育てたい、教育に携わりたいと人々が集う燕市を目指します。

一 すべての子どもが必要な保育や教育を受ける環境づくりに努め、子どもの発達や学びの連続性を大切にし、心身の調和のとれた子どもを育てていきます。

一 市民と一体となった教育を展開することにより、自分の持てる力を活かそうとする意欲や郷土を愛する心を培い、人間性豊かで生きる力のみなぎる子どもを育てていきます。

一 市民が目指す自己実現に向けて、いつでも、どこでも、だれでもが学ぶことのできる場や機会の整備、充実に努めます。

平成20年9月29日宣言

教育立市宣言文の出典等の説明

注1：『教育振興基本計画について - 「教育立国」の実現に向けて - 』より（中央教育審議会答申、平成20年4月18日）

注2：幼児保育・幼児教育基本計画検討委員会での委員の意見集約による（平成20年度末策定予定）

注3：教育ビジョン検討委員会での委員の意見集約による（平成21年度末策定予定）

注4：『燕市生涯学習推進計画』より（生涯学習推進協議会、平成19年度末策定済み）



市の指定文化財である、燕東小学校の「旧樋口家表門（赤門）」の前で

# 「教育立市」を宣言

市では、平成20年9月定例市議会に議案「教育立市宣言について」を提案しました。慎重審議の結果、議員全員から賛同を得て、全会一致で可決され、平成20年9月29日に教育立市を宣言しました。

市は、今年の2月に「燕市総合計画」を策定し、今年度から今後8年間のまちづくりを進めています。基本構想では「人」をまちづくりの原点とし、「一、育成、人を育てる」「二、参画、人を活かす」「三、交流、人がふれあう」「四、協力、人が助け合う」を基本理念としています。

教育の充実こそが、総合計画にある燕市の将来像「人と自然と産業が調和し、進化する燕市」を実現するための基本です。燕市教育委員会では「燕市幼児保育・幼児教育基本計画」を今年度中に、「燕市学校教育基本計画」を来年度中に策定します。また、燕

市生涯学習推進計画」については、昨年度策定しました。このように、教育の重要性が一層増している今、全市を挙げて教育に取り組んでいく姿勢を内外に示すため、教育立市を宣言し、教育の振興を図っていくことが重要であると考えています。

この宣言に伴い、今年度は、読書活動のより一層の推進を図り、子どもの言葉や感性、さらには表現力を高め、創造力を豊かにすることを目指します。

9月補正予算では教育立市宣言推進事業として、学校図書費の充実と教育講演会や教育先進地への研修視察の費用について、約1千万円を計上しました。また、来年度以降の教育立市宣言推進事業については、総合計画実施計画や新年度予算編成の中で検討を進め、具体化を図ります。

### 研修視察

「自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」を目標に国立教育政策研究所の委託を受け、学校図書館を活用しながら大きな成果を上げている三郷市を視察します。

とき 11月25日  
集合場所 吉田産業会館（午前7時30分発・午後7時30分着）  
視察先 三郷市立前谷小学校を中心視察  
定員 100人  
対象 市内在住の人（小中高生を除く）  
参加費 1300円（保険料・昼食代。当日徴収）  
申込期間 11月6日～14日  
日 定員になり次第締め切ります。  
申し込み・問い合わせ 学校教育課（燕庁舎）  
0256・63・4131  
吉田サービスセンター  
0256・92・2111  
分水サービスセンター  
0256・97・2111

